

「授けてくださった権威」

2017年11月25日

コリントの信徒への手紙 二 10章7節～11節 あなたがたは、うわべのことだけ見えています。自分がキリストのものだと信じきっている人がいれば、その人は、自分と同じくわたしたちもキリストのものであることを、もう一度考えてみるがよい。あなたがたを打ち倒すためではなく、造り上げるために主がわたしたちに授けてくださった権威について、わたしがいささか誇りすぎたとしても、恥にはならないでしょう。わたしは手紙であなたがたを脅していると思われたくない。わたしのことを、「手紙は重々しく力強いが、実際に会ってみると弱々しい人で、話もつまらない」と言う者たちがいるからです。そのような者は心得ておくがよい。離れていて手紙で書くわたしたちと、その場に居合わせてふるまうわたしたちとに変わりはありません。

パウロは、「あなたがたは、うわべのことだけ見えています」と言っている。パウロは見栄えのよい方ではなかったのだろう。月足らずで生まれたようで、頑強な体格ではなかったであろう。それに、持病を持ち、ひ弱に見えたであろう。更に、コリントに来た時、十字架の愚かさに徹する宣教をすると決意し、アキラ、プリスキラ夫婦と共に、底辺労働者の仕事であったテント造りをし、自活しながら宣教活動を始めた。人目には、一角の人物とは映らなかったであろう。しかし、パウロの身を捨てた宣教により、コリント教会が生まれた。だから、自分はキリストのものであると信じる人であれば、パウロたちも同じように、キリストのものであることを、もう一度考えてみなさい。あなたがたを打ち倒すためではなく、創り上げるために主イエスが授けてくださった権威を多少誇ったとしても、恥にはならない。パウロは宣教する権威を主イエスから授かったという固い信仰に立ち、それが活動を支えていた。この手紙であなたがたを脅迫していると思われたくない。そして、「わたしのことを、『手紙は重々しく力強いが、実際に会ってみると弱々しい人で、話もつまらない』と言う者たちがいるからです」と書いている。パウロの手紙は重々しく説得力がある。外見は弱々しく見え、話はずまらなかったのであろうか。使徒言行録 20章に、トロアスでの出来事を記している。パウロの説教は夜中まで、長々と続いた。エウティコという青年が3階の窓に腰かけて聞いていたが、眠気がさし、窓から下まで落ちた。パウロは「騒ぐな。まだ生きている」と言い、彼を蘇生させた。パウロの説教はつまらないと伝えているかのようでもある。しかし使徒言行録 14章では、リストラでのパウロの説教は絶賛されたと伝えている。しるしを見、話を聞いた群衆は、恰幅のよいバルナバを「ゼウス」、話をしたパウロを「ヘルメス」と言って、神々が降臨したと二人に雄牛や花輪を献げようとした。二人は「わたしたちも、あなたがと同じ人間にすぎません」と止めている。また、ガラテヤ書 4章では、パウロの説教を聞いた群衆は感激して、神の使い、キリストでもあるかのように受け入れ、また、目の悪いパウロのために、自分の目をえぐり出しても与えようとしたと書いている。パウロの説教は素晴らしい迫力があり、多くの人々の心を捉え、瞬く間に福音が広まったのが事実である。悪口を言う人は、間違った認識を増幅して言うのが常である。パウロは、「そのような者は心得ておくがよい」と警告し、離れて手紙を書く私と、その場に居合わせて振る舞う私に変わりはないと言い切っている。

パウロにとって、主イエスから授けられた福音を宣教する権威が拠りどころであり、ここから全ての言葉を生み出している。